

TEXT/HIROMI KANAMARU
ILLUSTRATION/TOSHIKO EHARA



運命を変えたデミ・ムーアのショートヘア

「愛しているよ。いつでも愛していた」
「同じく」
「俺の心は愛でいっぱいだ。その愛を君に。また会おう」
「またね。バイ」
——ラスト・シーン。愛を確かめ合う二人。

愛し合う恋人同士のサム（パトリック・スウェイジ）とモリー（デミ・ムーア）。ある日、二人はブロードウェイで『マクベス』を観た帰り道で何者かに襲われ、抵抗むなしくサムは殺されてしまう。残されたモリーはあまりの突然の出来事に、戸惑い、嘆く。

殺されたサムは、恋人モリーへの思い絶ちがたく、幽霊となって彷徨う。自分はなぜ、誰に殺されたのか。幽霊となったサムは、自分が偶然的通りすがりの強盗ではなく、何者かの策略によって殺されたことを知り、殺人の真実と本当の愛をモリーに伝えようと、あらゆる手立てで恋人に近づくのだ。たとえ死が二人を別つとも、愛の思いは死を超える。

現代のニューヨークを舞台に繰り広げられる純愛物語『ゴースト ニューヨークの幻』は、日本でも大ヒットした作品だった。

サスペンスに満ちたタッチ。その一方で黒人の霊媒師オダ・メイ（ウービー・ゴールドバーグ）を通してサムはモリーへの思いを伝えようとすが、なかなか上手くいかないチグハグさのコメディ・タッチ。さらに霊という神秘さが、実に上手くミックスされていた。何よりも、性が開放された今という時代にあつて、死を超える愛に、現代ならではの純愛プラトニックなタッチが見事に描かれて、それが観客のハートを掴んだに違いない。この映画のヒットで、日本でもモリーのショートヘアが話題になり、この後、しばらくモリーヘアのエクストが絶えなかつたと、何人か美容師から聞いたことがある。

彼女のヘアはショートグラ。しかも黒であ

る。それによって、少年のような顔立ちになり、その中性的な感じが、純粋な愛のテーマに見事にマッチした。そればかりではない。髪の色が、純真な愛と霊を扱うという、まるで東洋的な神秘性ともマッチしたのだ。そして、何より大きい要素はモリーを演じるデミ・ムーアの髪型と髪の色が、この映画で180度変化したことである。

実は、デミ・ムーアの映画歴の中で、黒い髪のショートヘアは、『ゴースト』以前は一本もないのである。仮に、彼女のヘアがショートでなかったならば、あれほどのヒット作にならなかつたかも知れないと思われるほど、『ゴースト』での髪型は、大胆な変化だった。そもそもデミ・ムーアという役者は、映画によってヘアのスタイルや色がよく変わる人だ。役柄へのチャレンジという側面も確かにあるが、女優としての彼女はヘアに対してもチャレンジ精神旺盛なのだ。髪型が性格を変えることをよく知っているのかも知れない。

デミ・ムーアは1962年、ニュー・メキシコ州ロスウェルの生まれ。10代からモデルとして活躍し、やがてテレビにも。そしてテレビドラマの『ゼネラル・ホスピタル』と、そのパロディー映画『病院狂時代』（1982年）の両方に、ほんのちよい役で登場している。最後の場面に、新たに病院にやってくるインターン生の一人として出てくるのだ。この頃の彼女は、栗色のストレートなロングヘア。おそらく、このスタイルが、最もデビュー当時の普段の彼女に近いのだろう。映画を観るとロングのケースが少なくない。

初期の主演2作目『恋人ゲーム』（1984年）では、写真好きの学生の男の子に惚れられる、ブルース歌手を目指す女の子に扮した。彼女はライブハウスで歌うシンガー。ここではハスキーな歌声も披露しているが、この役柄での彼女は、まだ素人っぽい雰囲気を残した、ウエーブのあるごく普通のロングだ。

“そせい”

エンリッチクリーム

霊芝母菌でお肌いきいき。 素肌美人へ一直線！

「そせい」エンリッチクリームは「商品力」と「使いやすさ」でリピートされています。是非、一度お試しください。



こんな方におすすめします

- しみ、そばかす、色黒等
 - 小じわ、かさつき肌
 - にきびあと、あせも、かぶれ
 - ひじ、ひざの固い角質等
 - 首すじや肌のトラブル、老化予防に。
- *ナイトクリーム用にメイクの下地用に直接、素肌につける方が効果的です。

お客様相談室

0120-49-7321

発売元

バイオの技術で健康と美容に挑む

ソセイバイオ株式会社

〒174 東京都板橋区上板橋3-21-1

TEL 03-(3931)7321代

●お問い合わせ、試供品は、お取引美容ディーラー、又は当社まで。

『ゴースト ニューヨークの幻』(GHOST)

1990年/アメリカ

監督：ジェリー・ザッカー

出演：パトリック・スウェイツ、デミ・ムーア、ウービー・ゴールドバーグ、リック・アルビス、トリー・ゴールドウィン

配給：CIC・ビクタービデオ

初期の作品で話題になったのが、さまざまな青春像を描いた『セント・エルモス・ファイヤー』(1985年)。彼女は、青春の目標を見つけれない、破滅型の女の子を演じた。ここでのヘアは、赤毛で、ワッフルの入ったもの。かなり目立つ髪なのだが、それが彼女の唯一の自己主張とも見えるものだった。『昨日の夜は…』(1986年)では、デザイン会社に勤務する女の子。偶然出会った男の子のロブ・ロウと同棲するのだが、いざ一緒に住んでみると上手くいかないという青春映画。ここでも栗毛のロングだが、軽くカールをしたり、ポニーテールにしたり、フロントの髪をバックにかき上げた風にしたりと、いくつかのバリエーションを見せる。コメデイの『ワン・クレイジー・サマー』(同年)では、ロック歌手の卵で、ここでは編み込みでつくったウェーブのあるロング。花屋の店員だった『ウィズダム』(同年)では、マロンブラウンのウェーブのあるロングで、ポニーテール風のヘアも登場する。ロバート・デ・ニールとシヨーン・ペン主演のコメディ『俺たちは天使じゃない』(1989年)では、洗濯の仕事をしている未婚の母で、ここでは茶色の肩まであるストレートヘアだ。そして次が、冒頭の『ゴースト』というわけである。

この後、夫のブルース・ウィルスと共演した『愛を殺さないで』(1991年)では明るい栗色の長いソバージュヘアで、美容師役を演じていた。精肉店の妻で、奇跡の愛を成就する『愛の降る街』(同年)ではブロンドのロング。大胆なヘアスタイルで登場した。その後、私生活で出産を経験した彼女は、トム・クルーズやジャック・ニコルソンと共演した『ア・フュー・グッドメン』(1992年)で復帰。ここでは、これまでどちらかというと多かったワーキング・クラスの役から、一皮剥けた大人の女の役を演じている。男が中心の軍にあつて、主体的で冷静に物事を判断していく少佐で、まだ新米のトム・クルーズをサポートしていく役だ。彼女は濃い褐色のショートヘア風の編み込みで登場し、これまでの可愛いというイメージを脱皮し、いかにも知的な雰囲気醸していた。

同じ頃に出演したのは、コメデイの『絶叫屋敷にいらっしやい』(1992年)で、ここでも褐色のショートヘアを後ろになびかせたもの。続く『幸福の条件』(1993年)では、ロングからセミロング、ワンレングスと、いくつかのバリエーションを見せる。この映画は100万ドルで妻を知らない男に渡せるかという、愛とカネを計りにかけたテーマの作品で、億万長者のロバート・レッドフォードと一夜を共にする人妻がデミ・ムーアだ。彼女は建築家の夫と知り合った学生時代、新婚時代、そして夫と別れたとき、再会と、ヘアスタイルが4回ほど変化する。そこに、主人公の成長と心の変化が表現されている。そして、現在、控えている最新作は、セクシャルハラスメントをテーマにした、マイケル・ダグラスとの共演作『ディスクロージャー』(1994年)。ここでのデミ・ムーアの役は過激で、男に対して逆ハラスメントを仕掛ける女。デミはストレートのセミロング。明るい褐色のヘアだが、今までの彼女のイメージとは、ちよつとカラーが違う。つばきに見ていると『ゴースト』以降は行動派的な役柄が多くなり、それに伴って、女の子らしいロングヘアがなくなってきた。かつて『ローマの休日』で、ヘアピン扮する王女様がショートヘアにしたことで、街の空気に触れて行動的になったのは象徴的だったが、デミ・ムーアも、まさに髪がショートになったことで、運命を変えてしまった。だが『ゴースト』ほど、テーマと役柄と本人とが見事に一致したヘアは見当たらない。今後、デミ・ムーアのヘアスタイルはどう変化するのだろうか。

*金丸弘美さんの著書『ゼロからつくるネットワーク術』が、ダイヤモンド社より出版されました。人脈を生かして人生を楽しむコツが満載！興味のある方はぜひ一読を。